

おうちのような保育園てくてく

保育の質の評価と改善方法

1. 保育の質の評価方法

(1) 自己評価

- **目的:** 家庭的保育者自身が日々の保育を振り返り、自分の長所と短所を把握する。
- **方法:**
 - **チェックリストの活用:** 地域の自治体や関係団体が提供する、保育内容、環境、保護者との連携、安全管理などに関するチェックリストを使用する。
 - **日誌や記録:** 日々の保育の様子、子どもの発達状況、保護者とのやり取りなどを記録し、定期的に振り返る。
 - **子どもや保護者の声:** 子どもたちの様子や保護者からの意見・要望を真摯に受け止め、自己評価に反映させる。

(2) 第三者評価

- **目的:** 外部の専門家や関係者が客観的な視点から保育の質を評価し、課題や改善点を明確にする。
- **方法:**
 - **訪問調査:** 評価者が実際に保育の場を訪問し、保育の様子、環境、設備、子どもたちの表情などを観察する。
 - **書類確認:** 保育計画、日誌、連絡帳、安全管理に関する書類などを確認する。
 - **ヒアリング:** 家庭的保育者、保護者、関係機関（自治体担当者など）へのヒアリングを行う。

(3) 保護者アンケート

- **目的:** 保護者の視点から保育の満足度や改善点を把握する。
- **方法:**
 - 保育内容、家庭的保育者の関わり、連絡体制、子どもの成長への影響などに関するアンケートを実施する。

2. 保育の質の改善方法

(1) 改善計画の策定と実行

- **目標設定:** 評価結果に基づき、具体的な改善目標を設定する（例：子どもの自主性を促す関わりを増やす、保護者との情報共有を強化する）。
- **具体的な取り組み:** 目標達成のための具体的な方法を検討し、実行に移す（例：特定の子どもの関わり方を工夫する、連絡帳の記載内容を見直す、地域の研修会に参加する）。

- **PDCAサイクル:** 計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→改善（Act）のサイクルを回し、継続的に質の向上を目指す。

(2) 専門機関や関係者との連携

- **自治体:** 大阪府その他自治体が行っている家庭的保育事業に関する情報提供、研修の実施、巡回指導などの支援を積極的に活用する。
- **研修会・勉強会への参加:** 保育の専門性向上のため、子どもの発達、保育内容、安全管理、保護者支援などに関する研修会や勉強会に積極的に参加する。
- **ピアサポート:** 他の家庭的保育者との情報交換や悩みの共有を通じて、互いに学び合い、刺激を受ける。
- **専門家のアドバイス:** 必要に応じて、子育て支援センター、発達相談センターなどの専門機関に相談し、専門的なアドバイスを得る。

(3) 継続的な学びと振り返り

- **情報収集:** 最新の保育に関する情報や、子どもの発達に関する知識を常に学び続ける。
- **自己分析と内省:** 日々の保育の中で、「なぜうまくいったのか」「なぜ課題が生じたのか」を常に問い直し、自身の保育を深める。
- **記録の活用:** 記録は単なる義務ではなく、自身の保育を客観的に振り返り、改善に繋げるための重要なツールとして活用する。